

保育者養成校学生の自然に対する意識と幼少期での自然と
のかかわり
～自然環境にかかわれる子どもを育てる保育者育成に向けて～

木下 智章

Influence of Past Nature Experiences on Consciousness of Nature of Early
Childhood Course Students

Motoaki Kinoshita

Abstract

As a result of analysis of questionnaire about nature experience, it is expected that male students have higher interests in insects than female students. Like a previous study, the number of male students who are able to touch or catch insects without hesitation is higher than that of female students.

These results suggest that male students are strong in insects as compared with female students. The result may be ascribed to the gender difference of experiences in nature in their childhood.

Key words: consciousness of nature, nature experience, alienation from nature, gender difference

1. はじめに

幼稚園教育要領の環境領域でのねらいには、「自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心をもつ」、「身近な環境に自分からかかわり発見を楽しむ・考える」ことが挙げられている。これらのねらい達成のためには保育者の側にも自然に興味関心をもって自らかかわって発見し、考えることが要求される。一方、都市化の進行による自然と触れ合う機会の減少が懸念されて久しく、保育者志望の学生の中にも自然と触れ合う機会が十分でなかった者が増えていると予測される。そこで、学生の自然に関連する実態を明らかにし、その結果を保育者養成の指導に反映させるため、本研究では、10校（4年制大学1校、短期大学1校、専門学校8校）の保育者志望学生の自然に対する意識およびこれまでの自然とのかかわりについてアンケート調査を実施した。そしてその結果を解析するとともに、林・田尻（2005）の約10年前の結果と比較することでその変化を見ようと試みた。

2. 方法

調査は2015年、近畿大学附属九州短期大学保育科1年生75人（平均年齢18.3歳）、福岡県立大学2年生28人（平均年齢19.1歳）、専門学校（横浜YMCAスポーツ専門学校、YMCA健康福祉専門学校、福岡医健専門学校、九州総合スポーツカレッジ、長崎柔鍼スポーツ専門学校、福岡医療秘書福祉専門学校、トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校と福岡リゾート&スポーツ専門学校の計8校）3年生144名（平均年齢20.8歳）に対して行なった。

2-1. 過去の自然体験に関するアンケート

下記に示す調査項目について、アンケートによる調査を行なった。

①虫（昆虫など）は好きですか。

はい、いいえ（嫌い）、どちらともいえない

②虫捕りをしたことはありますか。

はい、いいえ

③虫捕りをしたことがあると答えた人で、いつ頃虫捕りをしましたか。該当する時期に○を入れてください。

幼児期、小学校低学年、小学校高学年、中学校、高校

④触れる虫には○を、触れない虫には×をしてください。

トンボ、バッタ、ゴキブリ、カマキリ、カメムシ、セミ、アメンボ、カブトムシ、クワガタムシ、ハチ、アリ、ハエ、カ、チョウ、ガ、イモムシ、ケムシ、ムカデ、ダンゴムシ、クモ、ミミズ

⑤川や海で魚釣りや網で生き物を捕ったりしたことはありますか。 はい、いいえ

⑥動物を飼ったことはありますか。 はい、いいえ

⑦植物を育てたことはありますか。 はい、いいえ

⑧子どもの頃、住んでいたところは自然が豊かでしたか。

はい、いいえ

2-2. 解析

「虫捕りをした時期」において、複数に○がついていた場合は、一番新しい時期を解析に用いた。検定は、Mann-Whitney の U 検定は StatView、フィッシャーの正確確率検定は R を用いて行なった。

3. 結果と考察

「子どもの頃、住んでいたところは自然が豊かでしたか？」という質問に対する男女別の回答では、「はい（豊かだった）」と答えた割合は、男子が 75%、女子が 79%であった。回答の割合に男女差が影響していないことがわかった ($P > 0.05$)。これは、林・田尻 (2005) の約 10 年前の結果（男子が 83%、女子が 80%）とほぼ同じ数字である。すなわち、子どものころの自然環境や自然に対する感性は男女間で差がないであろうと思われる。

図 1 は、「虫が好きですか？」という質問に対する男女別の回答結果を示す。「はい（好き）」と答えた割合は、男子が 39%だったのに対し、女子は 5%であった。一方、「いいえ（嫌い）」と答えた割合は、男子 35%に対し、女子では 64%であった。「どちらともいえない」という回答は、男女とも約 30%であった。男女の回答の割合は明らかに異なっていることが分かった ($p < 0.001$)。この結果は林・田尻 (2005) の約 10 年前の傾向と同様であるものの、男女ともに「いいえ（嫌い）」の割合が増加していた（男子：好き 34%、嫌い 17%、女子：好き 8%、嫌い 47%）。

図 2 は、「触れる虫の種数」についての男女別の回答結果を示す。男子の平均は 8.4 種、女子は 6.0 種で、男子が女子よりも多かった (Mann-Whitney の U 検定： $p < 0.001$)。これも林&田尻 (2005) と同様の結果であるが、そのときの男子の平均 11.9 種、女子 7.2 種からすると大きく減少している。

図 3 は、虫捕り遊びを行なった最終学年を示す。男子の方が中学高校まで虫捕りを行なった学生が多い。これは、男子の方が子どもの時に女子より虫捕り遊びなどの自然体験を長期間経験していることを示しているといえる。しかし、男子女子ともに、小学校低学年

でピークを迎えており、林&田尻（2005）では男子は小学校高学年にピークが来ていたことから考えると男子の自然体験も短くなる傾向にあるといえるだろう。

図4は、子どものころの自然体験の実態を表したものである。アンケートの調査結果をもとに、虫捕り体験、魚捕り体験、動物飼育体験、植物栽培体験を男女別に示した。動物飼育以外では、虫捕り、動物飼育、植物栽培で回答の割合に男女間で有意な差があった（フィッシャーの正確確率検定：虫捕り体験 $p < 0.005$ 、魚捕り体験、 $p < 0.005$ 、動物飼育 $p = 0.181$ 、植物栽培 $p < 0.001$ ）。これは、林&田尻（2005）の魚捕り体験でのみ差があり、男女の区別なく、虫捕りや動植物の飼育栽培の体験をしているという結果からの変化がみられる。林（2003, 2004）の、幼児の自然体験の中で、男児は虫捕りや魚釣りなどの狩猟行為（ハンティング）に興味を持ち、女児は花などの植物を採集するか、虫捕りでもあまり動かないダンゴムシに興味を持つなど、採集行為に興味を持つ傾向があるという報告を引用し、林&田尻（2005）で議論しているが、その傾向は大きくなっているのかもしれない。

4. まとめ

幼児期に於ける自然体験は、幼児の興味・関心を刺激し、知的発達、情緒発達、科学的思考の芽生えなど重要な役割を担っている。生き物は幼児にとって重要な環境であり、その中心は昆虫などの虫たちである。保育者は、子ども達が自然とのかかわりをもつために、自然に興味関心をもって自らかかわって発見し、考えることが要求される。しかし、今回の結果から以前から懸念されていたにもかかわらず、男女とも生物の認識力は年々低下していることが明らかになった。

5. 参考文献

- （1）文部科学省（2008）『幼稚園教育要領』フレーベル館
- （2）林幸治（1994）「4本足のニワトリ：生物形態の認識と現状について」『近畿大学九州短期大学研究紀要』第24号 163 - 167 頁
- （3）林幸治（2001）「保育科学生の生物形態の認識力について」『近畿大学九州短期大学研究紀要』第31号 155 - 164 頁
- （4）林幸治・奥村千鶴（2003）「子どもの身近な自然とのかかわりに関する実践的研究（その2）」
近畿大学九州短期大学紀要第33号
- （5）林幸治・山下章子（2004）「子どもの身近な自然とのかかわりに関する実践的研究（その3）」
近畿大学九州短期大学紀要第34号
- （6）林幸治・田尻由美子（2005）「「自然とかかわる保育」の実践的保育指導力の男女差について」『近畿大学九州短期大学研究紀要』第35号 61 - 72 頁

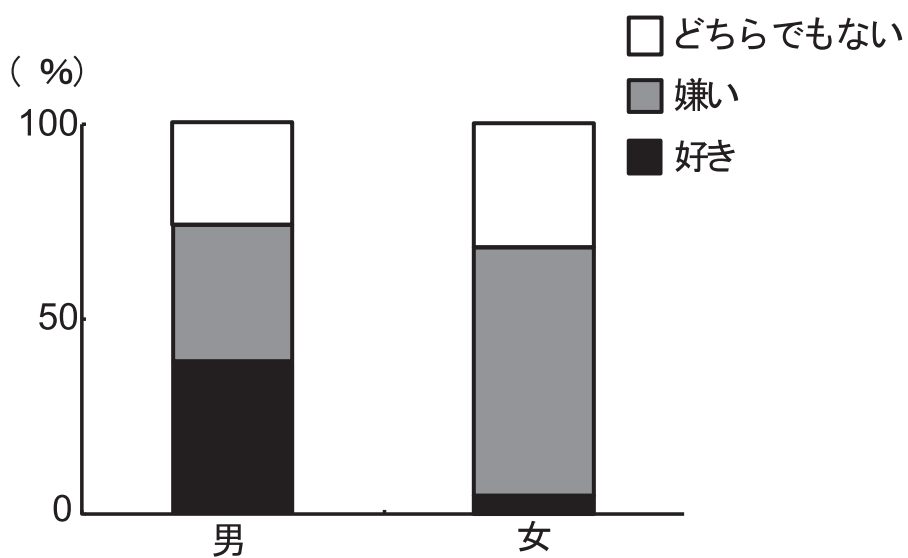


図1 男女別の虫の好き嫌い

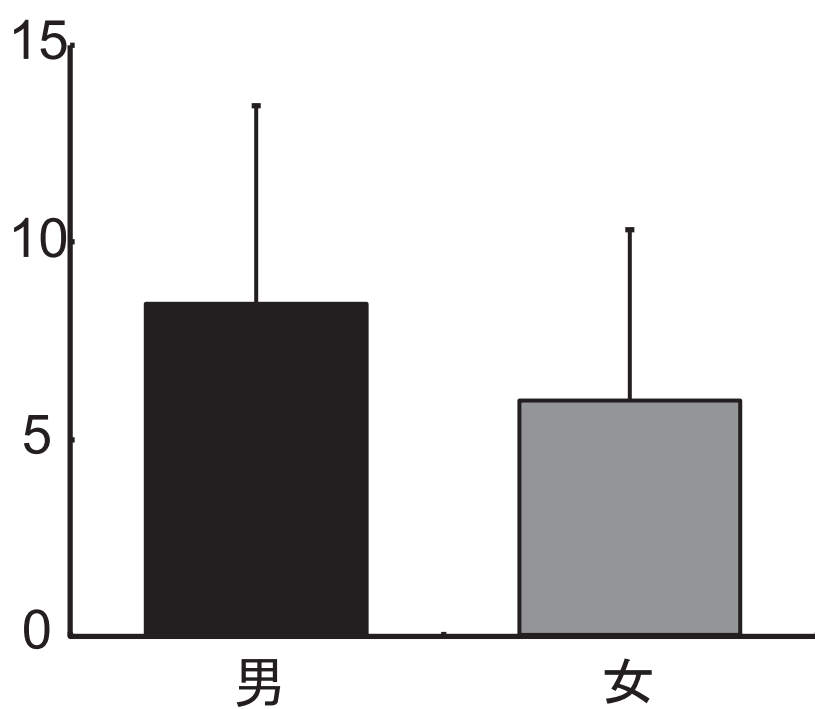


図2 男女別の触れる虫の種数

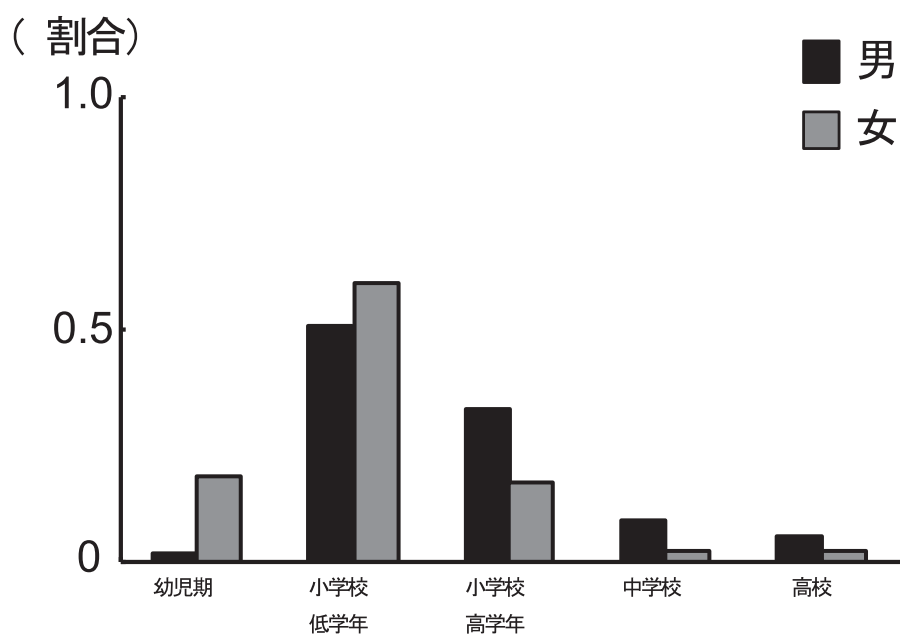


図3 虫捕り遊びをした最終学年

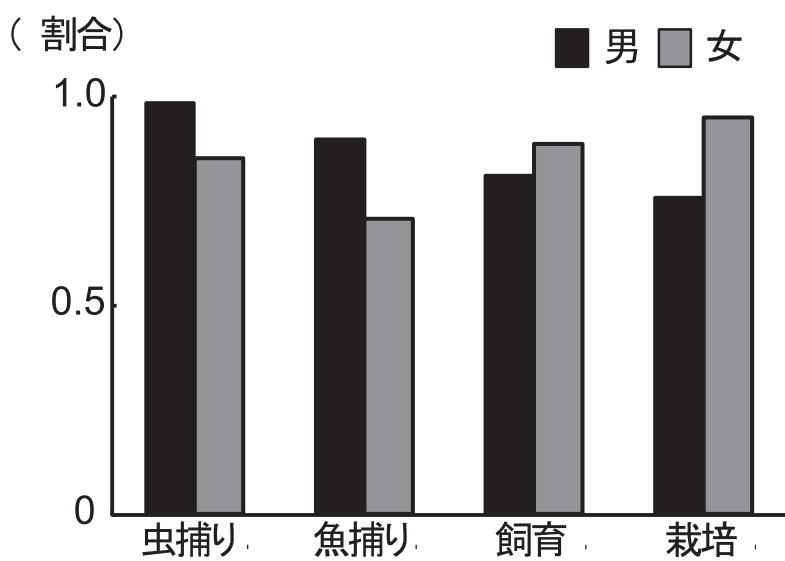


図4 男女別の自然体験